

番号	句	住所・氏名
51	初詣家族で来るのこれ最後	大阪市住吉区 筒井 義裕
52	初詣買った犬と歯果症	大阪市住吉区 筒井 遼真
53	年明けのしぶきの縁に光さず	紀の川市西三谷 小山 哲司
54	元旦の近江のまちに虹がかかる	き京田辺市大住ヶ丘四 市橋 千代子
55	夕暮れや静寂の露落ち葉舞く	藤根市大蔵町 白井 麗子
56	さらさらと水音ひびく紅葉径	西宮市高麗町 アシト オウ
57	石山に式部の響りがぎにくる	藤根市大蔵町 白井 麗子
58	人多く石山寺は露来か	西宮市高麗町 アシト オウ
59	石山で右往左往露の歌	西宮市高麗町 アシト オウ
60	もみじ山湖の先想う願	西宮市高麗町 アシト オウ
61	一命を取り留め輪血年惟心	西宮市高麗町 アシト オウ
62	予期もせぬ緊急手術除夜の鐘	西宮市高麗町 アシト オウ
63	初詣や伊予の松山子連れ	西宮市高麗町 アシト オウ
64	松山の道後温泉初詣かな	西宮市高麗町 アシト オウ
65	除夜の灯や宵後の輪血切れ目なく	西宮市高麗町 アシト オウ
66	除夜の鐘宵後の部屋の隣雨と	西宮市高麗町 アシト オウ
67	餅搗や擗遣の父の感勢よく	西宮市高麗町 アシト オウ
68	生還の父の餅搗く姿かな	西宮市高麗町 アシト オウ
69	塵土で祝う雑煮や擗遣の子	西宮市高麗町 アシト オウ
70	箱根越へ擗遣のバスや年の夜	西宮市高麗町 アシト オウ
71	浮ついた心静める初詣	西宮市高麗町 アシト オウ
72	冬木立己と向き合う擗遣に	西宮市高麗町 アシト オウ
73	水絶えぬ芭蕉を暮ふとくとの清水	西宮市高麗町 アシト オウ
74	比良の雪瀬田に写せり芭蕉庵	西宮市高麗町 アシト オウ
75	式部像化粧直しのお正月	西宮市高麗町 アシト オウ

番号	句	住所・氏名
76	秋の夜終わりの続く長電話	大津市柳川一 丸岡 佐代子
77	同色に夕焼けてそり吊し梅	大津市柳川一 丸岡 佐代子
78	内緒ごとくにはじける風仙花	大津市柳川一 丸岡 佐代子
79	独り賣流れ秋露聴いている	大津市柳川一 丸岡 佐代子
80	神の買守デイトの二人はしやぎすぎ	大津市柳川一 丸岡 佐代子
81	震えられぬ顔に合わせる冬備子	大津市柳川一 丸岡 佐代子
82	あらたまの命属く延暦寺	大津市柳川一 丸岡 佐代子
83	忘年の締めは湖国湖国歌	大津市柳川一 丸岡 佐代子
84	生還の近江軍しや浮城島	大津市柳川一 丸岡 佐代子
85	青年の不機嫌は背に冬の月	大津市柳川一 丸岡 佐代子
86	冬暮れや心の底にひそむ修羅	大津市柳川一 丸岡 佐代子
87	眺み合う旅との距離を計りつつ	大津市柳川一 丸岡 佐代子
88	湖風の絶へることなし注連飾り	大津市柳川一 丸岡 佐代子
89	比良山の雲流で挽む寒葉かな	大津市柳川一 丸岡 佐代子
90	故郷へ帰る夜汽車の冬備子	大津市柳川一 丸岡 佐代子
91	櫻門にどかと置きたる松飾り	大津市柳川一 丸岡 佐代子
92	「薄ぎ始め」のコックスの声凍てる湖	大津市柳川一 丸岡 佐代子
93	終天神屋け引寄の日暮れかな	大津市柳川一 丸岡 佐代子
94	藤蔭の生け垣に消ゆ雪堂	大津市柳川一 丸岡 佐代子
95	方丈の枯山水に舞ふ寒葉	大津市柳川一 丸岡 佐代子
96	朴葉寒風と戯むる道路脇	大津市柳川一 丸岡 佐代子
97	雷虫や命の重み受ければ舞ぶ	大津市柳川一 丸岡 佐代子
98	山寺へ上る灯の列去年今年	大津市柳川一 丸岡 佐代子
99	眩しさや向こう側の露の塵視	大津市柳川一 丸岡 佐代子
100	入れました岩の隙間に千円	大津市柳川一 丸岡 佐代子